

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第15号

平成13年7月23日発行



首里那覇烏瞰図(巻物一幅)

巻物 幅:90.2cm 長:210.8cm

絵図 幅:68.4cm 長:134.2cm

新館長紹介



みやぎ たもつ
宮城 保 館長

平成十三年四月一日付けで、沖縄県公文書館館長に宮城保が就任しました。新館長は、公文書館建設担当(平成四年に総務部文書学事課に設置)時代から公文書館に携わってきました。新館長に就任して、どのような方針を持つているのか、今後の抱負を語ってもらいます。

また、今年度より、米軍が撮影した戦前の沖縄の空中写真を収集します。これらの写真からは、戦災によって失われた土地の情報など、県内各地のいろいろな情報を得ることが出来ます。情報が詰まった宝箱のような空中写真を、利用者のみなさんが、多目的に活用されることを期待しています。

平成七年八月一日に沖縄県公文書館が開館し、今年の八月で六年目になります。開館からこれまで、資料収集に力をいれてきました。本年度は、これまでの経験を活かし、収集した資料を、利用者に対しどのように効果的に提供できるかを課題として考えています。

その一つとして、インターネットを利用した情報提供、すなわち各家庭からでも公文書館のホームページにアクセスすることにより、収集資料が閲覧できるサービスです。今年度は、コンテンツをより充実させるために、資料のデジタル化を積極的に進めています。現在は、琉球政府公報(約五万七千枚)の閲覧サービスに向けて整備中です。

今後とも、県民の利用しやすい施設をめざし、利用者の声に耳を傾けていきたいとおもいますので、これまで同様、皆さまのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成七年に地方分権推進法(法律第九十六号)が成立し、「地方の時代」が謳われるようになりました。この時代に公文書館の存在意義はますます高まっていくでしょう。と申しますのは、公文書館の役割とは、県民が地域の歴史について理解を深め、アイデンティティを確立し、沖縄の未来を主体的に展望する場を提供することだと考えているからです。これは、地域の資料を充実させることによつて、一步一步実現されていくことだと考えています。

アーカイブス アップラッシュ

平成13年度 新任職員辞令交付式

館長に宮城 保(みやぎ たもつ)、副館長に長嶺 香代子(ながみね かよこ)、資料課長に幸地 哲(こうち てつ)、及び主任専門員に石垣 清美(いしがき きよみ)が就任しました。

首里城周辺空中写真が大好評

米国国立公文書館から収集した、1945年4月2日に米軍が撮影した首里城周辺空中写真を公開しました。複写などの問い合わせが多かったため、A1版ポスターを製作し、1枚500円で販売中です。



『沖縄県公文書館と収蔵資料』常設展示中

「沖縄県公文書館と収蔵資料」というテーマで4月18日より、常設展を開催しています。公文書館の役割や業務の概要をパネルで説明している他、沖縄県文書、琉球政府文書、USCAR文書および琉球王国時代の文書などを展示しています。

岸秋正文庫目録の完成

故岸秋正氏が収集した、琉球王国時代から現代までの多岐にわたる沖縄関係資料(約1万1千点)を、平成9年1月に夫人の朝子氏より沖縄県公文書館に寄贈していただきました。これらの資料の整理を終え、調査・研究のツールになる『岸秋正文庫目録-沖縄関係資料-』を刊行し、図書館などの関係機関に配布しました。

公文書専門員を本庁へ研修派遣

沖縄県における文書実務全般を研修する目的で、平成13年5月から10月までの間、豊見山和美公文書専門員を総務部総務私学課へ派遣しています。

NHK連続テレビ小説「ちゅらさん」に沖縄県公文書館登場!

4月18日(水)朝8時23分、テレビの中でタクシーが乗り付けた場所、そこには見覚えのある赤瓦、ついに沖縄県公文書館がNHK連続テレビ小説に出演してしまいました。その後は、「ちゅらさん」をみてきました。」という利用者の何人かいらっしゃるほどの好反響でした。

平成12年度に公文書館が受け入れた沖縄県文書

沖縄県の各機関は、保存期間の満了した文書を公文書館長に引き渡すことになっています。その文書を“引渡文書”と呼んでいます。

保存期間は文書の内容にしたがって20年、10年、5年、3年、1年となっています。特別な理由がある場合に限り保存期間を延長することがあります。20年の保存期間を延長した文書は、保存環境のいい公文書館で保管することになっており、これを“移管文書”と呼んでいます。

平成12年度には、昭和54年に完結した20年保存文書、平成元年度に完結した10年保存文書、平成6年度に完結した5年保存文書、平成8年度に完結した3年保存文書が公文書館へ送られてきました。

表中の文書の単位は箱数です。県文書を収納する箱は2種類あります。A4サイズの文書を収納する厚さ7cmの箱と、図面などが収納できる段ボール(ほぼみかん箱サイズ)です。



所管部課名	引渡文書	移管文書
総務部		
総務課	19	
秘書課	1	
人事課		2
文書学事課	17	
税務課	1	
男女共同参画室	9	
基地対策室	1	
企画開発部		
企画総務課	1	
土地対策課	5	
情報システム課	1	
地域・離島振興課	26	
市町村課	53	
マルチメディア推進室	10	
宮古支庁	44	
八重山支庁	8	
文化環境部		
文化環境総務課	20	
自然保護課	7	
生活企画課	22	
文化振興課	3	
環境保全室	3	11
平和推進課	1	
消防防災課	35	3
国際交流課	2	
廃棄物対策課	1	
福祉保健部		
福祉保健総務課	6	
長寿社会対策室	58	
健康増進課	100	
福祉保健政策課	72	5
児童家庭課	59	14
障害保健福祉課	36	1
薬務衛生課	88	2
国保・援護課	8	
病院管理局	5	

所管部課名	引渡文書	移管文書
農林水産部		
農林総務課	18	
農政経済課	43	23
畜産課	3	
農地水利課	64	47
園芸振興課	13	2
畜産課	3	
営農推進課	6	1
村づくり推進課	5	
農地建設課	135	
漁政課	12	
みどり推進課	1	5
水産振興課	21	
漁港課	12	
商工労働部		
商工総務課	3	
工業工業振興課	11	
経営金融課	27	
観光リゾート局	10	
渉外労務課	7	
福岡事務所	1	
土木建築部		
土木総務課	80	
技術管理室	12	
用地課	6	52
道路建設課	20	
道路維持課	46	
河川課	55	2
都市計画課	39	
港湾課	35	1
空港課	5	
建築指導課	100	
住宅課	4	
出納事務局	7	
合計	1,526	171

平成12年度利用証作成者層内訳

単位:人数

平成12年度における公文書館の利用者層を、利用証作成者からみると、その他・一般(240人)、会社員(99人)、学生(90人)の順に利用されています。



平成12年度資料群別閲覧申請状況

単位:点数

平成12年度における閲覧申請書の集計によると、最も閲覧回数が多い資料群は、沖縄に関する書籍や私文書(2,783回)で、つづいて、USCAR文書(921回)となっています。



新収蔵資料の紹介 ～USCAR文書と関連資料～

沖縄県公文書館では、平成9年度より米国に職員を常駐させ、沖縄関係資料の調査・収集を行っています。この事業には、米国国立公文書館で所蔵するUSCAR(琉球列島米国民政府)文書(約320万枚)の収集及びその他の沖縄占領関係資料の調査・収集といった目的があります。

USCAR文書 (マイクロフィルム)

米国が沖縄を統治するにあたって作成したUSCAR文書は、琉球政府文書と並び、沖縄の戦後史を解明するための基本資料となります。沖縄県公文書館では、国立国会図書館と共同で、米国メリーランド州カレッジパークの米国国立公文書館に保管されているUSCAR文書をマイクロフィルムで撮影し、収集しています。

その際に、収集・整理の大きな目安となるのが、次に掲げる16のシリーズです。

No	シリーズ	枚数	収集年度	公開年度
1	高等弁務官室文書	21,676	H10	H11
2	高等弁務官に対する諮問委員会文書	7,265	H10	H11
3	復帰準備委員会(米国側)文書	28,956	H10	H11
4	民政官室・副民政官室文書	8,178	H10	H11
5	総務室文書	251,838	H11	H12
6	計画局文書	433,876	H11・12	H12
7	経済局文書	250,108	H12	H13 予定
8	厚生教育局文書	286,535	H9・10	H11
9	労働局文書	136,319	H13	H13 予定
10	法務局文書	(1,009,470)	H13	未
11	渉外局文書	273,517	H10	H11
12	広報局文書	(314,930)	未	未
13	公安局文書	150,332	H11	H13 予定
14	公益事業局文書	164,447	H9	H10
15	民政官府(宮古・八重山)文書	20,341	H9	H10
16	文書の来歴に関する資料	8,273	H9	H10

(注) 法務局文書及び広報局文書は、現在米国でマイクロフィルム撮影のための整理を行っている段階です。したがって、枚数はおよその数を示しています。

これら文書(マイクロフィルム)のほかにも、USCARが作成した写真資料や映像フィルム、また沖縄統治に関わった米国人の私文書などを収集しています。

USCAR広報局映像資料

米国の沖縄統治時代にUSCAR広報局が作成した映像フィルム80番組を米国国立公文書館より収集しました。(平成11～12年度)

番組名	番組本数
琉球ニュース	6
TVウィークリー	32
沖縄の産業	4
人・時・場所	6
沖縄の生産業シリーズ	7
その他	25

米海兵隊写真資料

沖縄戦時から戦後にかけて米国海兵隊が撮影した写真800枚を米国国立公文書館より収集しました。(平成12年度)



米海兵隊員の説得により壕からでてくる女性と赤ん坊
1945年4月

沖縄統治に関わった米国人の私文書のなかから、最近整理を終えた3文書についてご紹介します。

ジェラルド・ワーナー文書

〈Gerald Warner〉 1907～1989 寄贈文書数：35件
琉球列島米国民政府高等弁務官付政治顧問(1961～1964)
民政官(1964～1967)



ジェラルド・ワーナー氏は三代の高等弁務官(キャラウェイ、ワトソン、アンガー)のもと、民政官を務めた人物です。ワーナー氏の日本との関わりは、戦前にまでさかのぼります。彼は、生え抜きの外交官として、1930年代半ば、語学習得のため日本に派遣されていました。同時期に派遣された人物には、U・アレクシス・ジョンソン氏(U. Alexis Johnson, 1966年から駐日大使を務め、69年にはニクソン政権下の政治担当国務次官に就任し、小笠原・沖縄返還交渉のために力を尽くした人物)がいました。ワーナー氏と妻のリーラさん(Rella ジョンソン氏の実妹)が沖縄で過ごした思い出を収めたアルバム17冊を含む資料群が、2000年3月に夫妻のご家族より当館に寄贈されました。

ジョージ・H・カー文書

〈George H. Kerr〉 1911～1992 寄贈文書数：1,826件
歴史学者。主な著作に『琉球の歴史(1956)』、
『Okinawa: The History of an Island People (1958[2000])』等がある。

当館では1996年、ハワイ在住のクリス・ピアス氏からジョージ・H・カー文書の寄贈を受けましたが、この1,826件にのぼる文書の整理が完了しました。

カー氏は、Okinawa: The History of an Island People (1958 [2000] 和訳は出版されていない)の出版後数年も経たないうちに、この著作の一部に不満をいだくようになりました。1962年から63年にかけて琉球文化の調査を行った際、先島が、それまで氏が首里・那覇の政財界や学界のエリートから聞かされていたような「歴史に取り残された地域」ではないことに気づいたのでした。氏は、自ら先島で調査を行い、そこで多くの城跡や、中国製陶器が豊富であったことを示す考古学的物証を得ました。

カー氏は、何年もかけてOkinawaの改訂版執筆に取り組み、多くの草稿を書き上げましたが、出版には至りませんでした。当館には、カー氏の改訂版執筆に関するファイルが収蔵されています。

[参照資料] George H. Kerr, Mitsugu Sakihara (revision), Okinawa: The History of an Island People (Charles E. Tuttle Co., 2000)



トーマス・マーフィン文書

〈Thomas Murfin〉 1915～2000 寄贈文書数：233件
米国海軍政府職員(1945～46)、在沖米副領事(1952～54)



2000年9月、故トーマス・マーフィン氏が収集・保存されていた233件の資料が、妻のジュリー・マーフィンさんにより当館に寄贈されました。今回は、この資料群の中から、マーフィン氏と沖縄との関わり的一端を紹介します。

第二次世界大戦前に日本語を習得したマーフィン氏は、海軍将校として沖縄の軍政府に赴任し、1945年4月4日に設営された比嘉・島袋収容所を管理運営するスタッフの一員となりました。敬虔なクリスチャンであったマーフィン氏の人道的な行いは、収容所の住民たちに深い印象を残しました。1952年、マーフィン氏は領事として再び沖縄の地を踏みました。戦中から戦後にかけてマーフィン氏の人柄に触れた当時の住民たちは再会を喜び、領事を温かくもてなしました。

[参照資料コード] THM.2012-13, THM.1186



沖縄に設営された最初の民間人収容所。
1945年4月10日 米国沿岸警備隊撮影。

米国の主要紙、ニューヨーク・タイムズとワシントン・ポストのバックナンバーの一部が、マイクロフィルムで閲覧できます。

- ・ニューヨーク・タイムズ The New York Times
1945年1月1日～1958年12月31日
- ・ワシントン・ポスト The Washington Post
1945年1月1日～1945年12月31日

The New York Times.

AMERICANS INVADE OKINAWA IN RYUKYUS;
SEIZE 2 AIRFIELDS; FIRST RESISTANCE LIGHT;
9TH AND 1ST ARMIES JOIN, CIRCLING RUHR



1945年4月2日付のニューヨーク・タイムズ紙。
一面トップで米軍の沖縄本島侵攻を報じた。



ののむら たかお
野々村 孝男
(歴史研究家)

蚕は静かに桑の葉をはむ

「溶鉉炉」を持った人を見ること、その
楽しみが県公文書館にはたしかにある。
様々な施設が県内にはあるが、そこまで断
言して言える点では県公文書館が群を抜い
ている。

館の持つ静謐な雰囲気と所蔵する資料群
の質、研究者に最大限の血流を注ぎ込ませ
る環境のよさがそのバイアスを高めてい
る。

そういう満足感を利用者に与えている点
を視座に据えらると、「利用者の数」ばかり
での評価の声には、疑問が残る。雑誌等の
評価には、引用された度合いで割り出され
るインパクト係数 (Impact Factor) なるも
のがあるが、沖縄研究の資料を支える施設
としての評価には、別の尺度を考案し直し
い評価に結びつけて欲しいものである。

「喬木、風に強し」。他の施設にはない役
割を背負っている点でいかなる高い評価も
利用者は惜しまない。

最近、県公文書館に気合いが入っている
と、感じられ、とても心地よく爽やかであ
る。館には、二十四時間開いているインタ
ーネット上でのもう一つの窓口がある。そ
の膨大なデータがよく管理され、窓口が生
き生きとしている。

資料探しは、徹底的な「断片の寄せ集
め」である。断片としてだけでは空虚な構
造であった資料群、それらの断片を繋げる

ことによって、資料に命の息吹が入る瞬
間、それが、検索作業の持つ役割の一つで
ある。これらを整備された方々の努力が物
となり、分かりやすい形となって残してい
ただいた。その功労は、高く評価されるべ
きである。

一読するだけでその努力に頭が下がるの
は『岸秋正文庫目録』である。この世の舞
台に立った資料たち、人の努力の有り様を
伝える見事な集大成には人を一気に溶鉉炉
にまで高めるエネルギーがある。

請求した資料が手元に届くとき、関係者
の尽力によって「長い沈黙がやぶられたこ
との歓びのようなものまでもそと運んで
きていただけのことがある。また、採して
いた資料の一步先を戴けることもあり、資
料との嬉しい出合いには感謝して余りある
ものがある。

研究者には「蚕」のような一面がある。
ただ資料だけがあっても、生かされなけれ
ば資料にはならない。資料のかたに隠れ
ている一つの世界を現代に定着させたこ
と、初めて資料の価値が生じるのである。
資料は消化され、それをもう一度吐き出
す作業によって生かされる。

蚕は静かに桑の葉をはむ。その音が聞こ
えるような静謐感、研究者はそのような音
を耳に置きながら、資料を追っているところ
がある。資料にベールをかけていた魔物
を調伏させるようななか特別のおまじな
いを知っているかのような静謐感が、館を
品位あるものに高めている。

資料が持つ運命も、歴史の必然性の前に
は顔を向けるものである。背中を向けてい
た資料がばつと明眸皓齒な笑顔をみせる。
公文書館は、そんな「資料の笑顔」が見え
る建物である。

閲覧室からQ & A

閲覧室では沖縄に関する資料の質問が毎日よせられてきます。レファレンス記録簿からいくつかご紹介しましょう。

Q 宮古島の計画移住に関する資料はありますか？

A 沖縄県公文書館に収蔵している琉球政府文書の中には、「移住資金関係書類(宮古大野越他)」(資料番号: R00054942B)という簿冊があります。それ以外にも農林局移住課や耕地課の文書には、1960年代に琉球政府が行った移住・移民関係の資料もありますので、参考にご覧ください。

Q 糸満の追い込み漁に関する映像資料はありませんか？

A 読売映画社製作の「読売国際ニュース 沖縄関係19項目」のビデオに、昭和31年の長崎県小値賀島で、糸満漁民のトビウオの追い込み漁の映像が収録されています。閲覧室のミニシアター室で閲覧できます。(複写はできません。)

Q 沖縄県史資料編12(アイス・バーグ作戦)に掲載された地図をコピーできますか？

A 問い合わせの地図においても他の収蔵資料と同様、コピーできます。
ただし出版物などに掲載する場合は出版物等掲載許可が必要になります。

Q 摩文仁の平和祈念公園に関する資料はありませんか？

A 沖縄県から引き継がれた公文書で、昭和47年～48年度の都市計画決定関係資料の中に、「沖縄戦跡政府立公園関係」の簿冊が見えます。
今から30年前の計画書って興味ありますよね！

このように、探している資料、利用に関する疑問など、お気軽に閲覧室職員にお声をかけてください。

面・白・い・発・見

よく人から「どういうお仕事ですか」と聞かれ、「国立公文書館でアメリカの沖縄統治に関する公文書の調査と収集をしています」と答えると、次に来るのが「何か面白い発見はありますか」という質問です。「アーキビストの仕事は……と切り出したくなる気持ちを抑えて「面白い文書を探しているわけではありませんので、なかなか……」と返すと、相手の関心が急に冷めていくのが分かります。おそらく新聞の一面を飾るようなトップ・シークレット文書の裏話でも期待していたのでしょうか。

このような状況に何度か遭遇していると、一攫千金の「宝探し」でもしてみようかという気になることもありますが、存在さえ知られず眠っている巨大な文書の山を目の当たりにする度に、アーキビストとして優先すべき仕事があることを自覚させられ、その思いはふき飛んでしまいます。

駐在業務が始まる前、アメリカの沖縄統治に関する米国側公文書の概要は、少数の研究者によつて部分的に紹介される程度で、沖縄戦、軍政府・民政府、在沖米軍などに関する公文書がどこにどれだけ眠っているかという情報の蓄積はありませんでした。そこで、一九九五年に開館した沖縄県公文書館がこれら公文書の包括的な調査と収集に取組むことになったのです。

私はこの仕事をよく鉦山の探査隊に例えて考えることがあります。鉦脈を探し当て、その地図を描き、後から来る人々に知らせるフロンティアの役目です。いくつもある「山」のどこに沖縄関係の「鉦脈」が埋まっているのか――。鉦脈があることが分かったら、地図を描き、文書同士の関係を壊さないように鉦脈ごと削り取って沖縄へ送ります。そして、この鉦脈から「金」や「ダイヤモンド」を掘り出し、用途に応じて加工するのは「彫金技師」である研究者や一般の利用者です。

日本に比べアーキビストの位置付けがしっかりしているアメリカでは、この「探査隊」と「彫金技師」の立場が混同されることはほとんどありません。材料の特性を熟知して、面白い作品に仕上げていくのは利用者である「彫金技師」の仕事で、「探査隊」であるアーキビストが「作品作り」に没頭することはありません。

ほとんど何もない状態から始った探査作業でしたが、四年経った今、ようやく地図の輪郭が描けるようになりました。利用者によつてこれらの資料を使った面白い発見が次々に生まれることを願いますが、今日も山に挑みます。

公文書専門員

仲本 和彦

豆知識コーナー

紙は呼吸する!? -紙と湿度の関係-

紙はあたかも呼吸しているかのように、空気中の湿度(相対湿度)の変化で伸びたり縮んだりしています。これは、紙をつくっているセルロース分子が水素結合によりつながっていて、水となじみやすい性質(親水性)を持っているからです。紙は、水に浸すともちろんのこと、湿度の高い環境下にあっても空気中の水分を吸収して膨張します。逆に湿度の低い所では紙中の水分が減少して紙は縮んだ状態になります。湿度の変化は紙の伸び縮みを繰り返させるので、紙に対してかなりのストレスを与えます。したがって、紙資料を適切に保存するにはまず湿度を恒常的に保つことが大切です。もし湿度を調整できない場所に資料を置く場合には、紙製の保存容器に入れておきましょう。そうすれば、保存容器が調湿効果を発揮して中の資料への影響を和らげることができます。

懇話会ニュース

第七回 沖縄県公文書館
運営懇話会の開催

沖縄県公文書館運営懇話会委員の委嘱状の交付式が、平成十三年五月八日(火)に県公文書館で行われました。

十三人の委員に委嘱状が交付され、引き続き開催された第七回懇話会において、金城正篤沖縄大学教授、副委員長に稲葉耶季琉球大学教授が選出されました。各委員の任期は、二年で、公文書館の機能の充実、利用の促進等を図るためのご意見をいただくことになっています。



● 県民ホール展示会

平成13年7月16日～19日の4日間、『公文書から歴史資料へ～沖縄県公文書館の役割～』というテーマで、沖縄県庁県民ホール展を開催しました。
行政の足跡を示す公文書の歴史資料としての重要性や公文書館の役割と機能などをパネルにして展示しました。

● 友の会会員募集!

沖縄県公文書館友の会では、会員を募集しています。友の会に入会すると、会員同士の情報交換や交流を図る『友の会だより』が配布されます。
お問い合わせは、当館内「沖縄県公文書館友の会事務局」までどうぞ。

● 資料保存講習会

『和装製本と保存箱作成』参加者募集!
日時:平成13年8月10日(金)午後2時～4時30分
場所:沖縄県公文書館 講堂
参加費:無料
申込:電話受付(定員40名)
*詳しくは、当館までお問い合わせ下さい。

● 新着! 空中写真 **New**

米軍が1945年2月28日に撮影した沖縄本島全域の空中写真ネガフィルム113枚(米国国立公文書館所蔵)を密着フィルムで複製し、収集しました。

● 入館無料

● 開館時間

09:00～17:00 (閲覧請求は16:30まで)

● 休館日

- ①月曜日
- ②国民の祝日(昭和23年法律第178号)に規定する休日(月曜日と重なる場合は火曜日)
- ③12月28日～翌年1月4日(年末年始)
- ④6月23日(慰霊の日)
- ⑤特別整理期間(年間20日以内で館長の定める日)

● 2001年 7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

● 2001年 8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

● 2001年 9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

● 2001年 10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

(赤色) 休館日

● 閲覧室の利用方法

- ・初めて利用される方は「利用証」の交付をうけてください。その際は身分証明書の提示をお願いします。
- ・利用証をお持ちの方は、閲覧申請をして、資料の閲覧ができます。
- ・参考資料室の資料は自由に閲覧できます。
- ・閲覧室への所持品等の持ち込みは、制限がありますのでロッカーをご利用ください。
- ・資料の館外貸出は行っていません。
- ・資料の複写ができます。(複写は実費をいただきます。)
- ・担当職員が資料に関する問い合わせ・相談に応じます。

● 交通の案内

- ・バスをご利用のかたは新川バス停下車
- ・那覇交通(株)市内線1番
- ・東陽バス(株)91番・96番



<訂正> 第14号の新収蔵資料紹介(4頁)の「USCAR総務室・計画局文書」の記述において、ジョージ・H・カー氏の名前のつづりが間違っていました。正しくはGeorge H. Kerrです。ここにお詫びして訂正いたします。

アーカイブズ
 沖縄県公文書館だより **ARCHIVES** 第15号
 発行日 平成13年7月23日
 発行 沖縄県公文書館
 編集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部
 〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3
 TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879
 URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>